

「本をめぐる姉の話」

国語科 大熊 周

私は読書が好きです。毎晩寝る前に、布団の上でごろごろしながら好きな本を読み、寝ぼけて本が顔に二回落ちてきたら寝る、という悪しき習慣を中学2年から続けています。

活字の本を読むようになったのは、小学校低学年の頃。姉のお下がり、家にあった世界児童文学全集らしきものに始まり、高学年の頃は、母や姉の影響で推理小説をよく読んでいました。また、先月号の石丸先生とは対照的に、ずぼらな性格の私は、学校の図書館へ足を向けることはほとんどありませんでした。もっばら、読書家の姉が買ったり借りたりして、家に置いてある本を私も乱読する、といった要領でした。

かつて、私の家はNHKの夜7時台のニュースが終わるとテレビが消える家庭で、ドラマはたまに観ても、バラエティ番組は観るものではない、という感覚を持った両親に育てられました。インターネットも、当然スマホやタブレットもない時代、唯一の娯楽は読書くらいのものでした。そんな家に私より9年早く生まれた姉は、なおさら読書に親しまざるを得なかったのでしょうか。

姉はかなりの読書好きで、しかも、小学生の頃から校内の読書感想文や標語などで表彰されるような人でした。高校～大学生の頃は、短編の小説やポエムを書いて、応募していたようです。そんな姉は大学でドイツ語を専攻し、卒業論文では、村上春樹の80年代の作品に見られる形容表現をドイツ語に翻訳する、みたいなことをしていたようで……、この年末年始に、姉がそのとき使っていた本（『羊をめぐる冒険』）を実家の本棚で見つけ、私は手に取りました。本にはたくさんの付せんが貼られており、時折付せんをめくりながら、また元に戻しながら、当時の姉の心を覗いているような気分で読みました。自分ではない「誰か」が、跡を生々しく残している本に触れるのは初めてで、物語の内容とともに、自分の知らない姉の一面を追いかけているような感覚にもなり、当時の姉に対して抱いていた疑問や不満が解消された気がしました。

私にとって、「本」や「読書」という言葉は、常に姉とともにあります。幼い頃、母の代わりによく読み聞かせをしてくれた姉。中学3年生の時、読書感想文で何を読もうかと悩んでいたときに、瀬名秀明の『八月の博物館』を勧めてくれた姉。お互いに松本清張が大好きで、中高生の頃、よく本を貸し借りし合った姉。教員採用試験の二次試験で二回目の不合格となり、転職を考えていた私に、瀬尾まいこの『見えない誰かと』を贈ってくれた姉。私は、姉のさりげない優しさや思いを、本を通して受け取ってきたように思います。

日頃から、適度な距離で、適度に仲良く、たまに助け合う9歳差の姉弟、な私たちですが、お互いに、おじさん・おばさんになっていくこれからも、私たち姉弟の間には、「本」が存在し続けることを、私は望んでいるのです。

(※『見えない誰かと』の本は図書館にあります。)

文部科学大臣から表彰される！

本校は、「子供の読書活動の実践において優れた成果を上げた」ということで、先日、文部科学大臣から表彰状をいただきました。東京での表彰式の後、持ち帰られた賞状は、現在図書館にあります。

名誉ある賞状、ぜひ見に来てください。

《5月までの貸出しは、平均 0.6 冊》

5月までの生徒一人あたりの平均貸出状況です。出だしとしてはちょっと少ないかな・・・1年生がいないぶん、みんなで誘い合って図書館に足を運んでくださいね。賞状に恥じないように今年度1年、頑張りましょう。

学年別に見ると 2年 0.1冊 3年 0.4冊
4年 1.7冊 5年 0.8冊 6年 0.3冊 です。

各学級の貸出冊数を教室の後ろに掲示してもらっていますが、それぞれの学年で、一番貸出冊数が多かったクラスに金賞シールを、2番目に多かったクラスに銀賞シールを貼っています。(3番と4番は無し) ぜひ、他のクラスの様子ものぞいてみてください。

図書委員オススメの本

『神さまのおしゃべり』

さとうみつろう【著】

2年2組 原田和也



この本は、突然現れた怪しさ MAX の神さまが、ダメダメサラリーマン、みつろうに「あっという間に幸せになれる授業」をする話です。

怪しいと思わないでくださいよ。ちゃんとした実用本です。だまされたと思って読んでください。僕もちよこっと幸せになれましたから・・・。

この本には、1～6時限があり、全てで37の教えがあります。この全てを実践できたら、あなたはもう、幸せ者です！

～新刊紹介～

- 『コジコジに聞いてみた。モヤモヤ問題集』 さくらももこ【著】
- 『お梅は呪いたい』 藤崎翔【著】
- 『成瀬は信じた道をいく』 宮島未奈【著】
- 『アンと幸福』 坂木司【著】
- 『鎌倉うずまき案内所』 青山美智子【著】
- 『新ガラクタ捨てれば自分が見える』 カレン・キングストン【著】
- 『冬季限定ボンボンショコラ』 米澤穂信【著】
- 『俺たちの箱根駅伝』 上・下 池井戸潤【著】
- 『ぼくたちのアリウープ』 五十嵐貴久【著】